

第5号

○令和4年度
・第5回理事研修会



発行
北海道小学校長会
札幌市中央区北5条西6丁目
第二北海道通信ビル306号室
TEL 011-218-9850
FAX 011-218-9851
e-mail: h.s.k-32@dousho.jp
https://www.dousho.jp/

令和4年度 第5回理事研修会

☆令和5年2月24日(金)
14時30分より
☆ホテルライフオーソ札幌

《行政説明》
北海道教育委員会より9事項

【報告事項】

- 全連小第243回理事会報告
- 教育情報
- 会務報告・各部の活動について
- 第66回道小教育研究渡島・北斗大会の進捗状況について

【協議事項】

- 企画研修委員会の報告について
- 基金管理運営委員会の報告について
- 第66回道小教育研究渡島・北斗大会の全体会・分科会について
- 令和5年度総会・研修会の日程・議案
 - ・令和4年度会務報告
 - ・令和4年度会計決算・監査報告及び令和5年度一般会計予算
 - ・令和5年度北海道小学校長会活動計画(案)について
 - ・総会宣言決議について
- 令和5年度総会・研修会までの諸計画
- 総会宣言文起草委員の選出について
- 総会・研修会議長の選出について
- 全連小総会代議員の選出について
- 令和5年度の要望活動について
- 令和5年度道小役員の選考について
- その他

【連絡】

- 第75回全連小研究協議会
東京大会の参加申込について
- 令和5年度組織のための諸報告
- 総会・研修会出席代議員への案内状の配付依頼について
- 総会・研修会開催要項の配付依頼について
- 令和5年度の市町村別学校数<会員数>について
- 退職会員の感謝状及び記念品について
- 令和5年度諸会議予定<道小・全連小>
- その他
 - ・全連小バッジについて
 - ・総会・研修会、正副会長研修会、第1回理事研修会について

1 開会の言葉 伊賀 真美 副会長



本日は年度末のお忙しい中、全道各地よりお集まりいただき感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの感染が落ち着きを見せている反面、先週は道内11の管内でインフルエンザ注意報が発令された。各地の冬のイベントに並行して、校内でインフルエンザが流行するのは4年前まではごく日常的な出来事であった。しかし、4年前と大きく違うことは、学級が閉鎖になってもオンラインで学びを続けていけるということである。いつでも、どこでも、子どもたちが学ぶことができる環境が整った。次年度はそれを子ども主体の活動にするため、学びの概念を大きく変えて、学習指導要領の理念を体現することが、校長としての使命であると感じている。

春は「光」「音」「気温」の三段階でやってくるというが、今は一段階目の「光の春」である。頬を刺す風はまだ冷たいものの、徐々に日が長くなっており、日差しも強さと眩しさを増してきている。

今日の第5回理事研修会においては、今年度の活動を振り返るとともに、次年度の活動についての協議をお願いすることになる。冬の間に丸まっていた背筋を伸ばして、光に満ちた新しい年度を迎えられるよう、今年度最後の理事研修会が盛会に進行することを願っている。

2 会長挨拶 紺野 高裕 会長



本日は、第5回理事研修会に全道各地から参集していただき感謝申し上げます。早いもので今年度、最後の理事研修会となった。コロナ禍についてもこの3年間を経て、ようやく出口が見えつつある。先日、卒業式に向けての対応について通知が来たが、今後、ますますアフターコロナに向けての動きが加速すると思われる。

1年を振り返ると、5月の総会から始まり、コロナ禍における教育活動の課題、教員不足・人材不足への対応や働き方改革の推進、教科担任制や専科教員の問題、端末の活用やICT環境等の地域間格差の問題など、直面する課題に対して、情報を交流したり、要望等の取組を進めたりしてきた。

そして、第65回道小教育研究旭川大会を、ハイブリッド型で実施し、3年ぶりに分科会討議を行うなど、成功裏に終えることができた。全道の校長先生方に参加していただき、学校改善に役立つ大会となったことは、旭川市小学校長会の皆様の尽力のお陰である。改めて感謝申し上げます。

次年度は、渡島・北斗大会が開催される。1月24日に現地へ赴き、北斗市の市長と教育長、渡島教育局長に挨拶するとともに、会場を視察させていただいた。渡島小中学校長会の皆様方には、大会に向けた準備を精力的に行っていただいております。市長、教育長をはじめ、市の観光協会も含め、全市を挙げて協力をいただいております。

全道の校長先生方の力を結集して、大会を盛り上げていきたいものである。

本日は、報告、協議、行政説明など盛りだくさんの内容であるが、新年度に向けた重要な会である。また、会の終了後には退会される皆様とのセレモニーも予定している。

さて、資料の説明に移る。資料1は、2月16日に行われた常任理事会の大字会長の資料である。2頁をご覧ください。

1点目は、今年度を振り返り、全連小の継続的な取組、要望等が形になってきたことを挙げている。35人学級の進展、教免法の改正、高学年の教科担任制、教員選考の抜本的な改革などの教員の確保策、給特法改正への機運の高まりなど、まだ十分とは言えないものもありつつ、全連小の要望、取組がしっかりと伝わり、成果が表れてきたことが伝えられた。

2点目は、課題や要望事項の中で、整理が必要なこととして、大変になっている低学年の学級規模や人的支援策が求められていることについてである。問題行動等の調査や発達障がいに関する調査からも問題が浮き彫りになっており、低学年は35人学級では負担が大きく、人的支援の必要性が言われている。また、教員の量とともに質の担保についても、優秀な人材をどう確保し育成していくかが課題となっている。これについては、与党の一部から奨学金の返還免除についての言及があった。

さらに、働き方改革の在り方について、量から質への転換、つまり時短ばかりではなく授業の充実など、やりがいを感じられる業務の内容や、定数改善、学習指導要領の内容削減、現在のままではカリキュラムオーバーロードであることを指摘し、それらも含めて、働き方改革に取り組んでいく必要があることが伝えられた。

3点目は、教員採用選考試験の在り方に関する関係協議会についてである。県教委等の自治体関係者からは、採用選考の前倒しについて、問題作成の負担があるなど、消極的な意見が出ているとのことだ。また、他校種との温度差もあり、各地区で都道府県教委や他校種校長会との話し合いを行い、これを埋めていく必要があるとのことであった。

4点目は、「衆議院代表質問」での首相の発言についてである。教員の働き方改革についての内容は、ほとんどが自民党の特命委員会の主張であり、この動きに注視して、全連小の考えを伝えていきたいとのことであった。なお、今後の働き方改革等の方向性については、6月に出される方針で示されるとのことである。

続いて3頁、「教師の処遇や指導体制の改善、教師の専門性の向上」について。答弁で教師の専門性を高めることに触れているが、これは、SCやSSWを増やすことは難しく、教師の中に心理や福祉の専門知識のある人材を増やすよう教員養成をしていくとの意図がある。そして、これが定数改善につながるような取組にしていく必要があると指摘している。つまり、道徳教育推進教諭や特別支援教育コーディネーターのように、人が増えずに職務だけが増えることのないようにとのことである。

次は、国の動向より「義務教育の在り方ワーキンググループによる当面の検討事項」についてである。4頁の学びの多様性と包摂性に基づく学校文化の醸成については「グラデーションのある学校教育の実現」に触れているが、現場の負担が大きくならぬよう、検討の推移について注視する必要があることを指摘している。

5頁の資料2では、令和6年度の全連小徳島大会の原案が提示された。日程は令和6年10月24日、25日で23日には全連小理事会が予定されている。日程以外は、変更の可能性はあるが、北海道からの研究発表は一つになるとのことだ。道小では、二つの発表を予定していたので、今後発表予定だった地区との調整を図っていく。

10頁以降については、第243回理事会で出された資料になっている。この後、手塚副会長より理事会報告があるので割愛する。本日は長時間になるが、よろしくお願い申し上げます。

3 議長選出

…… 石前 聖香 副会長



4 報告

(1) 全連小第243回理事会報告 ……手塚 敏 副会長



2月16・17日の両日に開催された全連小の第243回理事会の報告をさせていただきます。必要部分は、今後、各委員会等から詳細な説明が行われるので、私からはエモーショナルな話をさせていただきます。

まず、大字会長の挨拶だが、いつもどおりたいへん具体的で分かりやすいお話であった。中でも、「校長の仕事は、深く降り積もった雪の上を一步一步歩いている。決して舗装されたアスファルトの上を歩いているわけではない。振り返ればそこに足跡が残っている。」という話が印象的であった。

その後、報告事項が続き、75周年記念事業では、記念誌は漢数字表記、それ以外が算用数字表記という使い分けであることが伝えられた。震災等被害被災県の報告は、宮城県仙台市であった。震災当時管理職だった方は、もう1名しかいないこと。当時教職員だった方は、現在半数を切っていること。折鶴等も作ることが目的となってしまってきているので、風化させない取組としていくことが課題であることが伝えられた。被災時の小学校6年生が、現在多数小学校教師になっており、期待しているという話も伝えられた。人材育成に直結していることを感じた話であった。

議事も多少の修正があったがすべて承認され、次年度の活動のアウトラインも見えてきた。各委員会からの報告では、「調査データが要請・要望活動に直結しており、素晴らしいエビデンスである。より一層、行政機関等への要請・要望活動に各校長会で活用して欲しい。」との話が伝えられた。

行政説明では、感情のこもった話しぶりに聞き入った。特に「教師の魅力」を語る部分では、「普通に仕事していて、年に数回、感動で涙する職業は他にはない。」というフレーズに納得させられた。

最後になるが、秋篠宮皇嗣殿下ご接見と皇居特別参観の話をする。接見は、秋篠宮皇嗣殿下と誕生日が一緒の紺野会長が務めた。他のメンバーは、特別参観をしたが、

「とにかく広い」の一言であった。案内されたとおりに歩いたが、どこを歩いているのか分からなかった。学校経営レベルの感想としては、さすがの「危機管理」であった。電子機器については一切使用することができず、監視カメラが至る所にあり、温度を感知してレンズが動くのにはたいへん驚かされた。

(2) 教育情報について …… 森田 智也 事務局長



7頁、記事番号2-6「教員就職率は60.1%、国立の養成大、2年連続増」の記事について。全国44の国立の教員養成大学・学部を2022年3月に卒業した学生の同9月末時点の教員就職率は、前年同期比1.1ポイント増の60.1%であったことが、文部科学省の調査で分かった。2年連続で増加したことを伝えているが、先日全道の校長先生に配信した、全連小理事会での文科省の資料を見ても、既卒者の応募が少ないのが現状である。ここを上げていかない限り教員不足は改善されないと感じている。一方、9頁、記事番号2-12「道内中学教員34%過労死レベル、長時間残業は依然深刻、道教委、パート職員拡充へ」の記事では、支援員等の拡充を図るという内容があった。道教委からの情報とは異なる部分がある可能性があり、内容の精査が必要と感じた。

16頁、記事番号4-3「英語教育、早ければ効果が出るは幻想？小学生の学びで大切なこと」の記事について。生活の中で英語を使う第二言語環境では、年齢がある程度関係する。特に発音は、早く学んだ方がいわゆるネイティブに近くなる。しかし日本のような、英語を日常的に使わない外国語環境では、それは「幻想」である。そのため、質の良いインプット、つまり汎用性の高い英語のインプットをできるだけ多く得ることが必要となる。学校内では限りがあるので、教室外での学習が増えることとなり、また、「お勉強」になることで、興味が薄れてしまう懸念があることが伝えられていた。

52頁、記事番号10-2「教育誌1月より、また一つ教育誌が終刊に」の記事について。文字通り、教育誌が終刊するという話題である。多くの先生方が手に取ったことがあると思われる「総合教育技術」が紙の発行を終了し、ウェブに移行するという内容である。

私たちが読んでいた頃は毎月の発行であったが、徐々に発行の間隔が開いてきて、ついにという感じである。「通知表の所見の書き方」の特集号、新卒当時は貴重な情報源であった。

最後の記事は、最後の日本教育新聞のコラムから、一部を抜粋し終わりとする。

「この春退職を迎える校長先生方、本当にお疲れさまです。退職初日の4月1日の朝はいまだかつて見たことがない青空が心に広がる、とは先輩校長の弁。肩から何かが、ふっと落ちたという話も。健康で事故もなく残りの任期を全うすることを祈念しています。」

3月31日そして4月1日が近づいてきた。今年退職を迎える皆様への言葉に代えさせていただきます。

(3) 会務報告・各部の活動について

①会務報告 …… 渡邊 均 事務局次長



1月10日の第12回事務局研修会以降、本日までの会務について、予定された会議等が滞りなく開催されたことを報告する。

②各部の活動報告<次年度活動計画も含めて>

【経営部】 …… 谷口 光伸 経営部長



経営部では、活動方針にある4点をポイントとして活動を進めてきた。具体として、小中事務局員による合同学習会、地区別教育経営研究会に関する業務、法制研究集録、学校経営の資料を作成した。その中から3点を中心に報告させていただく。

1点目、地区別教育経営研究会について。コロナ禍の中で開催方法を工夫し、教育の今日的課題を中心に、校長の職能向上に向けた有意義な研究会となった。また、オンライン開催とした地区の担当者とも連絡を取り合うなど、各地区とのつながりを保つことを大切にして業務を行った。各地区校長会の皆様の協力に、改めて感謝申し上げます。

今年度の各地区の具体的な内容については、道小ホームページに令和4年度地区研究活動報告として掲載されているのでご覧いただきたい。

次年度の地区別教育経営研究会開催計画書は、3月17日(金)の提出ということで、すでに各地区に送付している。理事の皆様より、担当者に確認いただけますよう、お願い申し上げます。

2点目、法制研究集録について。本年度の第53集はデータ化し、予定通り2月27日にパスワード付きで道小ホームページに掲載する。パスワードについては、この後、各地区にお知らせする。

本集録が、管理職として条例・規則等諸法令に関わる課題に対処する資料として、また、地教研での研究資料や校長の指導性を涵養するための資料として広く活用されることを願っている。

3点目は、学校経営の資料について。この資料も、地教研での活用に加え、日々の学校経営に関する資料としての活用をねらいとしている。今年度も、活用価値のある内容にするべく、必要な事柄を厳選し編集にあたった。

【研修部】 …… 若林 晋 研修部長



令和4年度の活動報告について、研修部の資料1～2頁をご覧ください。12月以降の分を報告する。

1点目は、地区研究活動について。

各地区から提出いただいた原稿を道小ホームページに掲載したのでご覧ください。

2点目は、教育改革等に関する調査について。

3月に入ったら調査結果が研究紀要冊子となっており、お手元に届くことになっている。各学校で活用いただきたい。その他の活動については、研修部の資料をご覧ください。

次に、令和5年度の活動計画について。

3～4頁をご覧ください。主だったものについてお伝えする。

研修部の活動の中核となるのは研究大会である。9月8日、9日に開催される渡島・北斗大会については、開催地実行委員会と連携を図り、大会の成功に向け、諸業務を進めていく。各地区においては、本日の研修部資料をはじめ、旭川大会の大会要項や研究集録等を参考にし、渡島・北斗大会への参加体制の整備や、研究発表の準備等に取り組んでいただくよう、お願い申し上げます。

なお、全体会・分科会については、この後の協議の中で、研修副部長から説明をさせていただく。その他、令和5年度の研修部の業務としては、全連小の各委員会による調査、「小学校教育60号」の発行、地区研究活動、交流、全連小研究協議会東京大会発表地区の支援等に取り組んでいく。

【対策部】 …………… 秦 直人 対策部長



令和4年度の対策部の活動について、報告させていただく。まず、会員必携の編集・発行について。

道小の組織、活動計画、会則などの必要事項を見直しながら掲載し、全道各地区、各部、関係機関の協力を得て、6月末日発行、7月上旬には全会員へ配付した。

次に、全道会長研修会について。

6月17日(金)にWeb開催を行った。計画・準備・当日の運営を担当し、各地区の皆様から事前に知らせていただいた話題の中から、GIGA スクール構想実施状況と課題、新型コロナウイルス対応に係る教育課程上の課題、専科・教科担任制についての3点を共通話題として取り上げ、話し合いを進めた。各地区会長より、地区の実情をもとに具体的な意見交流が行われ、各地区が抱える課題に対する取組や今後の課題等について共通理解を図ることができた。記録は、「道小情報特別号」に掲載されている。

次に、全道調査の実施について。

4月に、広域人事に関する調査を該当校の校長及び異動者本人に実施し、結果は道小ホームページにて報告し、参考資料とした。また、校長退職者動向等調査も同じく5月に実施し、その調査結果は第3回理事研修会で報告し、「道小情報特別号」に掲載した。

続いて、令和5年度対策部活動計画案について。

活動方針・業務内容は今年度とほぼ同様と考えている。5月末に会員必携を編集・発行。6月に全道会長研修会をWeb開催にて計画・運営。4月より全道調査を実施。

広域人事に関する調査と校長退職者の動向等調査、新たに期限付教諭配置状況調査も行う。各地区の皆様・道教委・関係機関の協力を得ながら進めていく。また、道教委との意見交換会についても、今年度同様取り組んでいく。

最後に、5頁にあるように、現在、来年度の全道会長研修会の共通話題について検討中である。話題集約について、各地区の皆様にご協力をいただいた。新年度すぐに、全道会長研修会や広域人事に関する調査について、各地区への依頼事項があるので、確認の上、準備をお願い申し上げます。

【情報部】 …………… 石田 正樹 情報部長



これまでの情報部の活動を報告させていただく。

1点目、会報「教育北海道331号」について。

3月に発行できる見通しとなった。届きましたら、ご覧ください。また、332号についても3月初旬に情報部から各地区執筆者の方へ依頼する予定である。

2点目、「道小情報」について。

1月18日に第4号電子版を発行し、第4回理事研修会の報告を行なった。最終号の第5号は、本日行われている理事研修会の報告となる。

3点目、道小ホームページについて。

地区校長会日より、地区研究活動、第4回理事研修会の概要、地区別教育経営研究会報告、旭川大会の研究集録などを新規に掲載した。「教育北海道331号」に掲載した地区活性化支援事業については、3月中にホームページでも掲載する予定である。

4点目、全連小関係について。

今年度、北海道小学校長会に割り当てられた原稿等については、全ての報告を完了した。令和5年度の執筆依頼もすでに届いている。情報部資料の全連小との連携の表に、執筆をお願いするブロック・地区等を掲載したので確認をお願いする。

5点目、年間の活動報告について。

2頁以降の令和4年度情報部の活動報告をご覧ください。特別号を含めて6回発行した「道小情報」、7月と3月に2回発行した「会報・教育北海道」、道小ホームページ、全連小広報との連携などを報告している。

6点目、令和5年度の情報部活動計画(案)について。

冊子の2頁以降に掲載している。正式には、来年度の第1回理事研修会で提案、承認をいただくが、原稿依頼の関係もあり情報共有の意味で掲載している。

7点目、教育北海道並びに全連小関係の原稿執筆ローテーションに掲載した。これからの計画に役立ててもらいたい。

令和5年度も、道小情報・教育北海道の発行、ホームページの充実、全連小との連携を中心とした活動を継続する。また、来年度、北斗市で開催する、道小教育研究渡島・北斗大会についての情報も、道小ホームページ等で積極的に発信していきたいと考えている。

(4) 第66回道小教育研究渡島・北斗大会の進捗状況について

…………… **田邊 芳明 研修部副部長**



3点、お伝えする。1点目は、研究発表者の氏名報告について。

研修部の資料5～6頁をご覧ください。会長から研究発表担当地区の理事の皆様への依頼文書と氏名報告の用紙となっている。2月27日(月)に、この依頼文書と氏名報告用紙のデータを、発表担当地区の理事の皆様あてに、メールで送付させていただく。4月4日(火)までに、道小事務所へ提出をお願いする。

2点目は、渡島・北斗大会の参加期待数の変更について。8頁の一覧をご覧ください。

12月の第4回理事研修会で示した人数が一部変更となっている。令和5年度の会員数が減少することに伴い、割当数に変更が生じた地区がいくつかある。8頁の表で確認をお願いする。

3点目は、「研究主題、副主題、分科会の研究課題、趣旨及び研究の視点」という冊子(通称「水色冊子」)、及び、分科会運営に関するマニュアル「分科会運営者研修会」を作成した。それぞれ印刷して製本したものを配付させていただいた。地区理事の皆様から、その二つの冊子を研究発表者の方や分科会運営に関わる校長先生に渡していただきたい。なお、二つの冊子のデータは、道小ホームページにも掲載しているので、そちらも活用していただきたい。

…………… **西田 浩人 研究指名理事**



新型コロナウイルス感染症が収束の方向に進み、参集する形で渡島・北斗大会を迎えられそうである。9月に向けて準備を着実に進め、主管校長会としての役割をしっかり果たしていきたい。

本日は、第1次案内を基に、第4回理事研修会以降の進捗状況をかいつまんで報告させていただく。また、この第1次案内については、本日の理事研修会の終了後、各地区校長会の事務局長宛に、会員数+2で発送するので、各地区で確認の上、会員への配付をお願いする。

さて、今年の1月24日、道小紺野会長、森田事務局長、渡島小中学校長会池田会長、私の4名で開催地となる北斗市、北斗市教育委員会、そして渡島教育局を表敬訪問し、今年9月に全道から会員が参集する形で大会を開催する挨拶と全面的な支援をお願いし、快諾をいただいた。合わせて、紺野会長、森田事務局長には全体会場となる北斗市総合文化センター及びいくつかの分科会会場を視察していただいた。後援名義についても依頼済みであり、道教委からも承認をいただいている。

次に各部の状況について説明させていただく。研修部では、記念講演の講師との打合せや大会要項の作成に向

けた準備に取り組んでいる。また、会場部では、各分科会場の施設の確認と机や座席配置の検討に入っている。

庶務部では、全体会場から分科会会場、または、宿泊先として予想される函館市や北斗市駅前と全体会場を結ぶシャトルバスの運行計画、グーグルフォームを活用した個人申込について準備を進めている。昼食については北斗市商工会が総力を挙げて、安全で美味しい昼食を用意してもらえるように協議を進めている。

今後、事務局では、人事異動後の組織体制の見直しと、第2次案内の作成作業に入る。道小事務局の皆様を確認をいただき、5月の道小理事研修会において配付できるよう、準備を進めていく。

大会の申込については、旭川大会と同様、地区ごとの手続きに加え、グーグルフォームによる個人申込もお願いし、昼食の注文や宿泊先からのシャトルバスの利用の有無等を確認させていただきたい。急な変更が生じた場合にも、参加者個人が申し込んだメールアドレスへ事務局から直接送信させていただく。

最後になるが、渡島小中学校長会では、次年度4月10日の総会・研修会のあと、現地実行委員会全体会を開催し、組織体制と業務分担の確認を行い、準備を本格化させていく。総力を挙げて、温かいおもてなしと内容の充実を目指し準備を進めていくので、皆様の参加をよろしくお願い申し上げる。

5 協 議

(1) 企画研修委員会の報告について

…………… **南部 和紀 委員長**



5月9日の総会の折に、札幌地区より提起された内容について、紺野会長より諮問を受け、答申する形となった。本委員会はこれまでに、5回の委員会を開催し議論を重ねてきた。本日は、企画研修委員会としての答申を申し上げる。

まずは、対策活動等補助費の位置付けや会計上の運営についての検討と確認について。

これは、税源移譲の際に、札幌地区の主たる交渉の相手が、道教委から札幌市教育委員会に変更されたことに伴い、対策活動等補助費920,000円が道小より札幌地区に支給されている。詳しくは、資料を参照していただきたい。

本委員会としては、対策活動等補助費の札幌地区内での位置付け及び用途については問題ないが、会計上の事務手続きについては、920,000円という額が、総会の決議を経て支出されていることを示すために、今後も継続が必要とする判断を行った。

次に、道小運営の効率化に向けた今後の具体的な取組に対し、意見交換を希望するという内容について。

これについては、資料に掲載されているとおり、三つの観点で意見交換を行った。今後、学校数減少が見込まれ、会員数減少を避けることができない状況である。今後の運営については、危機感をもって対応しなければならないという前提で意見交換を進めていった。

1点目、会議の精選、旅費の削減について。

本委員会は、会議や旅費等の精選・削減について、令和2年度に開催された企画研修委員会の答申に基づき、今年度から取り組みを始めている。推移を見守りつつ、見直せる部分については、今後も不断に取り組む必要があるとして、まとめることとなった。

これまでの見直し、効率化の取り組みについては、資料の4～5頁をご覧ください。その一つとして、今年度全連小は1,500円の会費値上げを行ったが、道小は、この値上げ分を会員から徴収することなく、会議等の精選、旅費の削減を行うことで対応を行っている。

2点目、研究大会の運営について。

本委員会としては、研究大会については、令和8年度の全連小北海道大会(札幌大会)までは、従来の内容や方法を基本として開催するのがよい。ただし、内容の一部を配信するなど、多くの会員に情報提供することにより、会員の職能向上につながると考えられるものについては、適宜、検討するのがよい。令和8年以降については、道小事務局内で原案を作成したのち、令和6年を目途に、企画研修委員会で検討するのがよいとして、まとめることとなった。

3点目、将来を見据えた組織の在り方について。

本委員会としては、ブロック数や地区の数、専門部の数については、道中並びに道公教と歩調を合わせる必要があると考えた。今後の組織再編等については、道中とも、小中合同研修会等で協議を進めていくのがよい。その際、全連小、全日中の動向を注視しながら検討を進めるのがよい。このような形でまとめることとなった。

(2) 基金管理運営委員会について

…………… 谷口 光伸 委員長



令和5年1月23日に、基金管理規定に基づき、紺野会長をはじめ8名の基金管理運営委員と共に、基金管理運営委員会を行った。

本委員会では、次年度に刊行される全連小75周年記念誌の購入について、学校の備え付け図書とすることから、会員の個人負担ではなく、道小基金から全会員分を支出する件について、会長より諮問されたので、審議を行い、ここに提案をさせていただく。

本委員会では、道小基金から、全会員分を次年度支出することが可能なのか、今後の基金の造成は、どのように推移していくのか見通しを立てた上で協議しなくてはならないと考えた。

資料1をご覧ください。平成24年度から令和4年度までの総収入と総支出は、表の下にあるとおりである。現段階での道小基金の差引残高は、12,479,721円となっている。

次に、資料2をご覧ください。ここでは、今後の道小基金の造成状況について、学校数の減少予測や退職会員の推移などを勘案しながら、新入会員の人数を算出し、この先10年間の道小基金の造成予測を立ててみた。その結果、厳しく見積もっても6,540,000円の基金を造成することが可能という見通しを立てることができた。

最後に資料3にあるように、記念誌の購入費として、全会員分の見込み額2,880,000円を支出したとしても、

10年後には、約11,140,000円の基金が確保できる見込みとなった。よって、本委員会では審議の結果、全連小75周年記念誌の購入費として、道小基金から全会員分を支出することは適切であるとして、まとめることとなった。

(3) 第66回道小教育研究渡島・北斗大会の全体会・分科会について

…………… 田邊 芳明 研修部副部長

まず、渡島・北斗大会の概要について説明させていただく。研修部の資料11～12頁をご覧ください。11頁には、渡島・北斗大会の主題、副主題、趣旨を記載している。12頁下段に日程概要の記載がある。9月8日に開会式、講話、当面の諸課題、分科会、9日に全体会、記念講演を予定している。会場等の詳細については、第1次案内で確認していただきたい。

次に、分科会運営者研修会について説明させていただく。渡島・北斗大会の分科会運営者研修会は、今年度同様、Zoomによるオンラインミーティングを活用して行う。研修部の資料13頁をご覧ください。

今年度8月に行った臨時的分科会運営者研修会を正式なものとして行うことになった。次年度は、計4回の実施を計画している。各回の実施方法等については記載しているとおりである。

この分科会運営者研修会を充実させるため、理事の皆様をお願いを申し上げる。13頁下段に、第1回分科会運営者研修会の内容が記載されている。その第1回目では、研究発表者から発表原稿原案を提示していただくことになる。

この理事研後、できるだけ早く各理事の皆様から、研究発表予定者の選出をいただくとともに、原稿執筆要領等を15～19頁に掲載しているので研究発表者へ伝えていただきたい。地区の皆様のお力を結集し、研究発表者の原稿作成を支援していただきますよう、お願い申し上げます。

また、新年度の円滑なスタートに向け、地区内における引継ぎについても、遺漏なきようご配慮をお願いする。20頁は令和5年度以降の研究関連分担なので確認していただきたい。

なお、令和6年度の全連小徳島大会発表分担については、二つの発表を予定していたので、20頁の表にも徳島大会において、二つの地区での発表を担当していただくよう示していたが、北海道に割り当たった発表数が一つとなったので、令和6年度以降の全連小での研究発表については、今後調整を図っていく。また、道小研究大会での発表についての変更はない。

(4) 令和5年度総会・研修会の日程、議案について

…………… 森田 智也 事務局長

令和5年度第66回の総会・研修会の日程は、令和5年5月8日(月)となっている。北海道や札幌市から往来や会同の自粛が出されない限り、感染対策を十分にとりながら、会同で行うことを予定している。ライフオート札幌において、10:30～15:00での開催予定である。

議案については、資料の2頁にあるとおり、第1号議案から第6号議案までが予定されている。

① 令和4年度会務報告について

…………… 森田 智也 事務局長

② 令和4年度会計決算・監査報告 及び令和5年度一般会計予算について …………… 末原 恵蔵 会計理事



令和4年度 会計決算及び監査については、4月8日(土)に開催する第2回運営委員研修会において、一般会計及び特別会計の執行の監査を行う。結果については、第66回総会・研修会で報告を行う。

続いて、令和5年度 会計予算編成について。まず、一般会計予算編成についてである。

令和5年度については、令和4年度の執行状況を基本とするが、今後の会員数の減少及び今年度の企画研修委員会からの報告内容を受け、引き続き緊縮型予算編成に当たる。具体的には、今年度から機関会議である全道会長研修会、第2回理事研修会、第4回理事研修会をWeb会議としたことに加えて、分科会運営者研修会のハイブリッド化やWeb化による運営も取り入れるなどして、旅費・会議費等の削減を図り、令和5年度の支出を抑えていくこととする。

道小の会費については、今年度と同額を予定している。地区送金連絡費についても、今年度と同額を各地区に支出する予定である。

続いて、特別会計について。

地区研修補助金についてだが、各地区には会員数によって決められた基準額が支出されている。13頁の表で確認いただきたい。

地区校長会活性化事業として支出している、研究実践交流事業掲載謝金についても、今年度と同額を各地区に支出する予定である。

全連小海外教育事情視察参加補助は、全連小が隔年で実施している「海外教育事情視察」に参加するための補助であるが、ここ数年、コロナ禍により事業の実施が行われなかった。

次年度については、ニュージーランドへの視察を夏季休業期間中に一週間程度実施する予定であるとの連絡を全連小から受けている。前回の割当ては3ブロックだったので、今回は4ブロックから参加者を選出させていただくことになる。事業が実施される場合は、道小からの補助額は150,000円を予定しており、全連小からも補助金が支給される予定である。

なお、道小基金については、18頁に記載されているとおり、小中一貫校や義務教育学校の校長として発令された場合の基金の拠出額については、平成28年7月15日の小中合同研修会の場で検討され、確認されていることを報告申し上げる。

道小と道中への拠出額の割合4対6については、全連小と全日中との申し合わせ内容に準じている。拠出額については、今年度と同額を予定している。

③ 令和5年度北海道小学校長会活動計画(案)について …………… 中田 恭太郎 委員長



令和5年度の活動計画作成について大きな変更はない。今年度、教育を取り巻く情勢を常に鋭く捉え、本道教育に責任を持つ北海道小学校長会にふさわしい活動計画とするため、中教審答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」と、令和4年度全連小活動計画を根拠とし、取組を推進してきた。

また、北海道教育推進画、北海道教職員研修計画、学校における働き方改革北海道アクションプラン(第2期)、北海道文教施策・予算策定に関する要望及び回答などの文書を用いて文言の精査を図り、内容項目の移行などの検討してきた。このような取組は継続していきたい。

続いて、活動計画作成委員会の検討状況についてお伝えする。委員会は全部で6回行った。この間、役員研修会、事務局研修会を2回ずつ経て、最終案をとりまとめた。最終案については、各部の理事委員から「根拠を明確にした文言や表現であり、細部にわたり検討が図られたことが分かる」「期限付教諭等の確実な配置や役職定年後の雇用についてなどに言及されており、これらを解消していく活動をしっかり行なっていくことが必要である」「多様性を尊重する態度を育み、共生社会を実現していくことを盛り込んだことは、今日的で、認識を新たにすることができた。」などの意見をいただいている。

それでは、令和5年度活動方針(案)を読み上げる。

活動方針

北海道小学校長会は、結成以来、北海道の小学校(義務教育学校を含む)の教育充実・発展のため、組織の総力を傾注して研究と実践を積み重ねるとともに、積極的な施策提言や要望活動を通し、教育条件の整備・充実に努め、多くの成果をあげてきた。これからの社会は、Society5.0時代の到来、グローバル化の進展や少子高齢社会・人口減少社会の到来等により、社会構造や雇用環境が大きく、また急速に変わることになる。また、「予測困難な時代」を迎え、新型コロナウイルス感染症対応の経験を生かした教育活動が今後も続く中、子どもが、答えのない問いに立ち向かい、自分のよさや可能性を認識し、多様な立場の者と協働的に議論し、様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。そのため、校長は、新しい時代に対応した明確なビジョンと鋭い時代感覚の下、創意ある取組と組織の活性化を図り、「生きる力」を育む教育課程の編成・実施・評価・改善に努めなければならない。また、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による「主体的・対話的で深い学び」の実現、地域の資源を活用した教育活動の展開などにより、自立した人間として、多様な立場の者と協働しながら創造的に生きていくために必要な資質・能力を育成する「社会に開かれた教育課程」を実現していく必要がある。さらには、感染症や災害の発生等乗り越えての学びの保障、GIGAスクール構想を踏まえた授業改善、学校における働き方改革、北海道における災害等での教訓を生かした危機管理対応や学校安全教育、特別支援教育の充実、教職員定数の改善や人的措置の充実、いじめ・不登校等の生徒指導など、山積する緊急かつ重要な課題に対応していかなければならない。

本会は、このような状況を深く認識し、ふるさとに誇りと愛着をもち、社会構造の変化の中で持続的で魅力ある学校教育を実現し、未来社会の創造に挑戦する子どもを育てるため、組織の総力をあげて「チーム北海道」として各地区校長会や関係機関等との連携をより一層強化する。そして、調査・研究活動の充実により課題解決に努め、以て、道民の信託に応える学校経営を推進していく。そのために、校長は、自らの使命を自覚し、創意ある展望と計画の下、指導力を発揮して、学校組織の活性化と教職員の資質・能力の向上等に努め、信頼に応え活力ある学校づくりに全力で取り組む。

- 1 学校経営にかかわる諸課題への迅速で的確な取組を通して、持続的で魅力ある学校教育の実現に努める。
- 2 愛情と信頼に基づく、活力ある学校経営の推進に努める。
- 3 生きる力を育む教育課程の編成・実施・評価・改善に努める。
- 4 児童理解を深め、時代の変化に即した生徒指導や特別支援教育の組織的な推進に努める。
- 5 「ふるさとに誇りと愛着をもち ともに未来社会の創造に挑戦する子ども」を育てる研究活動を推進し、研究成果の交流を図るとともに、校長自らの研鑽に努める。
- 6 新たな時代に応じた教職員の資質・能力の向上に努める。
- 7 本道教育をめぐる教育諸条件を把握し、その改善と整備・充実、要望活動に努める。
- 8 教職員の処遇の改善に努める。
- 9 教職員の福利厚生施策の充実に努める。
- 10 北海道小学校長会の組織の強化と活動の充実に努める。

令和5年度の活動方針については以上である。活動内容については紙面にて確認いただきたい。

④ 総会宣言決議について

.....丹野 靖彦 経営部幹事



総会宣言決議に関わり、令和5年度 総会宣言文(案)の作成について提案させていただく。

令和5年度の総会・研修会に出席いただく代議員の皆様より、事前に各ブロック1名の総会宣言文起草委員を選出していただき、起草委員会を立ち上げる。

その委員会において、宣言文案を作成し、5月8日(月)の第66回 総会の中で、総会宣言決議について、として提案させていただく。

なお、この宣言文の起草については、全連小や道小の活動方針に基づいて検討し、作成を行っていく。

(5) 第66回総会・研修会までの諸計画について

(6) 総会宣言文起草委員の選出について

(7) 総会・研修会議長の選出について

(8) 全連小総会代議員の選出について

.....松村 隆志 事務局次長

(9) 令和5年度の要望活動について

..... 渡邊 均 事務局次長

第4回理事研修会において、令和5年度の「北海道文教施策・予算策定に関する要望書」作成に向けて、皆様をお願いした集約表を提示させていただいた。

その表をエビデンスとし、情勢を的確につかみながら道中が主担当となり作成を行った。さらに、道小や道公教の役員とも協議・確認を行い、三者連名の要望書として、書面提案させていただく。→「承認」

(10) 令和5年度

道小役員〈会長・事務局長〉の選出について

..... 若林 晋 役員選考委員長

北海道小学校長会会則第6条で、会長・事務局長は理事研修会で決定し、総会で承認を得ることになっている。従って、本日の理事研修会に先立ち、午後1時30分より役員選考委員会を開催した。選考の結果、令和5年度北海道小学校長会会長は、札幌市立北園小学校 森田智也 校長、事務局長は、札幌市緑丘小学校 末原 恵蔵 校長をお願いしたい。

【新会長 就任挨拶】



紺野会長から大役を引き継ぎ、その責任の重さに身の引き締まる思いである。会長就任にあたり、一言、挨拶申し上げる。

北海道小学校長会は、昭和32年の発足から来年度66年目を迎える伝統ある組織である。「正論を以って正道を歩む」の理念の下、全道の会員一人一人が小学校教育の向上のために、真摯な取組を進めきた。その伝統を大切にし、私たち自らが主体的・創造的に活動し、道小のもとで協働することを誓うとともに、皆様方にも同様のお願いを申し上げる。

さて今日の学校においては、令和の日本型学校教育の実現という方向のもと、全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学びの実現が叫ばれている。

同時に教育の世界には、GIGA スクール構想取組の充実。義務教育9年間を見通した高学年における教科担任制。教員定数の改善。教員等の人材確保や新たな研修制度の実施。いじめ・不登校・ヤングケアラーなど指導上の問題への対応。働き方改革の推進など、複雑かつ多様な課題が山積している。

このような困難な状況にあっても、各学校においては、教職員一人一人が自らを伸ばそう、高めようと研究・研修、研鑽を積むなど、不断の努力が重ねられている。

そのような中で、私たち校長は何をすべきか。時代の変革期を迎えている今こそ、自校の教職員の努力をより実りあるものにするため、これまで以上に校長のリーダーシップとマネジメント力が求められるのではないだろうか。私たち校長が志を高くもって、研鑽し挑戦し続けることが肝要ではないだろうか。

職能向上につながる活動は、道小の重要な活動である。全道会長研修会、北海道教育委員会との意見交換会・各課懇談会、年5回の理事研修会などを通じ、北海道の小

学校長の創意ある学校経営の実現に資することを願っている。

その最大の取組が研究大会である。来年度は、第66回北海道小学校長会教育研究渡島・北斗大会が開催される。苫小牧大会以来、4年振りの会同開催となることを信じている。旭川大会の成果のもと、校長の職能向上と本道教育の質の向上を目指して、研鑽を積む大切な機会となることを期待している。

先日、開催地へ赴き、北斗市長、北斗市教育長、渡島教育局長への表敬訪問を行った。また、関係団体からも多大な協力をいただいている。感謝の気持ちを抱くとともに、大会の準備が着実に進んでいることを実感し、期待感を大きくした次第である。

最後に当会の運営について話させていただく。

今年度より、経費節減の取組としてのオンラインでの会議を実施してきた。オンラインでの会議は、経費や移動時間の面で効果を上げることが確認されているが、弱点となる部分もある。また、オンライン会議だけだと、本音の語り合い、深い話にはなりにくいと聞くこともある。オンラインでの会議をよりよいものにするためには、このような対面で議論する機会、互いに連帯し合う関係づくりを一層重視しなければならない。

その上で、さらに私たちは、北海道中学校長会や北海道公立学校教頭会、北海道教育委員会や市町村教育委員会等の教育関係諸団体などとも連携を図りながら、末原事務局長共々、北海道教育の充実に努めてまいりたいと考えている。

今後の各地区校長会の皆様方へのご支援とご協力をお願い申し上げ、就任の挨拶とさせていただきます。

副会長並びに監査委員の候補者の選考について

.....**松村 隆志 事務局次長**

会長と事務局長が決定したので、理事研修会終了後、各ブロックで相談いただき、副会長並びに監査委員候補者の選出地区を決めていただく。役員名簿の各ブロック最上段の理事の方に声掛けの世話役をしていただき、今年度中に決定して報告をお願いする。

具体的な人選は、その地区に一任する。必ず、結果を道小事務所と地区事務局長へお知らせいただきたい。また、地区代表の理事候補者の選出もお願いする。地区代表の理事候補者は、当該地区にその推薦を一任する。

6 議長退任

7 連絡

(1) 第75回全連小研究協議会

東京大会の参加申込について

.....**田邊 芳明 研修部副部長**

東京大会の参加期待数については、研修部の資料のとおりである。こちらは前回の第4回理事研修会で説明したものと変わっていないので、この表に基づいて参加者を決めていただきたい。

次に、北海道を代表して発表いただく二人の校長先生を紹介する。

第1分科会「経営ビジョン」では、滝川市立滝川第一小学校 牧野 良信 校長に、第7分科会「研究・研修」では、留萌市立港北小学校 村元 隆一 校長に発表いただく。空

知地区、留萌地区の皆様は、発表者の校長先生のご支援を、よろしくようお願い申し上げます。

なお、空知地区、留萌地区においては、参加期待数について、気を付けていただく点がある。空知地区、留萌地区の場合、発表分科会はそれぞれ3名ずつを割り当てている。その内数には、研究発表者が1名含まれているが、その他に、次年度の道小副会長が、もし空知地区、留萌地区から選出された場合は、その3名枠の1名分を使って副会長が自分の地区の発表分科会に参加することになる。次年度の副会長は、それぞれのブロックごとに選出されることになるので、その動向をご確認の上、発表分科会の参加期待数である3名を決定していただきたい。

最後に、東京大会の申込について。

4月12日頃、東京大会事務局から道小事務所に東京大会の案内文書が届く予定である。その後、4月15日頃に道小事務所から地区代表者の方に大会参加関係用紙等を送付する。各地区においては、本日示した東京大会、参加割当数をもとに、大会参加者名簿を地区で取りまとめ、5月12日までに、道小事務所へ提出いただきたい。集約した名簿は道小事務所から東京大会事務局に提出する。

また、大会参加・資料代(7,000円×地区参加人数分)については、5月15日から5月31日までの間に、所定の口座に振り込んでいただく予定である。

なお、東京大会参加者は個人でWebによる参加申し込みを行うことになる。また、宿泊・航空機等の斡旋はないので注意いただきたい。

次年度、第1回目の理事研修会が5月9日のため、それまでに地区ごとに取り組んでいただく内容を中心に説明させていただいた。再度確認いただき、不明な点については道小事務所まで連絡いただきたい。

(2) 令和5年度組織のための諸報告について

(3) 総会・研修会出席代議員への案内状の配付依頼について

(4) 総会・研修会開催要項の配付依頼について

(5) 令和5年度の市町村別学校数<会員数>について

(6) 退職会員の感謝状及び記念品について

..... **松村 隆志 事務局次長**

(7) 令和5年度諸会議予定<道小・全連小>について

..... **末原 恵蔵 会計理事**

第4回理事研修会で示したものと、若干の変更があるので、お伝えする。

4月19日の第1回全連小常任理事会、12月8日の第7回道中事務局研修会、1月10日の第12回道小事務局研修会が前回から変更となっている。

道教委意見交換会については、8月7日で道教委と調整中だが、まだ決定していない。別紙の「諸会議・行事一覧」には、開始時刻、会場についても記載しているので、各地区校長会で活用いただきたい。

(8) その他 渡邊 均 事務局次長

①全連小バッジについて

②総会・研修会、正副会長研修会、第1回理事研修会について

8 閉会の言葉 …………… 出葉 充 副会長

理事研修会における研修と協議に感謝申し上げます。

役割の順番の妙で、本年度の第1回理事研修会において、開会の言葉を述べさせていただいたことを思い出している。コロナ対応が続く中、ICT環境が急速に進み、教育課程においても、我々の会議や研修の機会においても、オンラインやハイブリッドの形態が積極的に活用されるようになった。そのメリットが実感されるとともに、一堂に会する機会の大切さも、より一層明確になったと言える。特に第1回のような節目の会は、集まること自体に重要な意味合いがある。そんな主旨を伝えさせていただいた。

そして今日は、本年度最後の第5回理事研修会であった。今日もまた、こうして一堂に会することが大切な機会であった。私自身、1年間、道小の役割をいただいて過ごす中、北海道の広域性、各地の状況の多様性を実感するたびに、オール北海道で、疎通を図ることの重要性を改めて実感するところとなった。効率化を図りつつ、節目で会同することはやはり重要と考える。

丸3年を迎えているコロナ対応の日々も、その制約を少しずつやわらげる方向が見えてきている。ただし、まだ、安閑とするわけにはいかない。また、本日俎上に上がった内容を改めて概観しても、様々な課題に直面していることが、私たちの現状である。

次年度以降も、オール北海道、チーム北海道として力を結集していくことを、そして、お集まりの皆様、各地の会員の皆様と心をつなげていくことを、確認させていただき、閉会の挨拶とさせていただきます。